

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ ⑩ — 救いの角を起された』

武田 真治 牧師

詩編 132:10-18 ルカ福音書 1:57-70

本日の聖書箇所は、洗礼者ヨハネの誕生の様子です。即ち「さて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。八日目に、その子に割礼を施すために来た人々は、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。」です。

私たちは、イエス様の誕生の様子はクリスマスとしてよく知っていますが、それと比べると、ヨハネの生まれたその時の様子については何も触れられおらず、それよりも「割礼」とか「名付け」について詳しく報告されています。

当時、生まれたばかりの赤ちゃんはみんなで大事に育てられました。生まれてから7日間は名前が付けられませんでした。なぜなら、現代のように病院も保育器もありませんから、感染病や育ちの問題で多くの赤ちゃんが命を長らえることができなかったのです。それ故、親の精神的なダメージも考慮し生後一週間でもなくなった場合は死産としたのです。八日目に割礼を施してようやく一人のイスラエル人として登録されるのです。そして、その一人の人間として生まれた印として名前を付けるのです。その割礼式には近所の人達も駆けつけ、お祝いしたのです。以上のことが詳しく記されているということは、洗礼者ヨハネがまさにこれまでの旧約聖書ニユダヤ教の古い伝統や環境、周りとの良き関係や風習の中で生まれて来たことを示しています(=イエス様の旅先で馬小屋でのお生まれは、それらとは大きく外れていることが分かりますね。

ただ、もう一つ報告されている点で、そのようにして親戚たちが父と同じザカリアという名前を名付けようとしたのを、母エリサベトは受け入れず「名はヨハネ」と言い出します。人々は「そんな名前は親戚にはいない」と聞き入れず、エリザベトを説得してもらおうと父親の父ザカリアに問うたところ(=親戚たちは自分の名前を引き継ぐのだから嬉し

いはずだと)、彼も「この子の名はヨハネ」と石板に書いたので「人々は皆驚いた」と、そして天使に命じられた通に「ヨハネ」という名が付けた時、「たちまちザカリアは口が開き、神を賛美し始めた」のでした。その讚美歌が67節以下にある《ベネディクトゥス》と呼ばれる賛歌となります。

当時の慣習や親戚の要請でなく、両親が二人で「ヨハネ」と名付けたことは、新しい時代の始まりを告げているように感じられます。聖書はこの後「このすべてが、ユダヤの山里で話題になった。聞いた人々は皆これを心に留め、『いったい、この子はどんな人になるのだろうか』と聞いた」と記しています。古い風習に一つの波紋を投げ掛けた出来事だったということでしょう。これも伝道の一つの形でしょう。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 5月1(水) 20:00
II. 5月2(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: 上尾富士見幼稚園を覚えて
担当者: (水) 小草 (木) 富澤
祈りに覚える人: 東さん 阿部さん

【教勢報告】

主日礼拝 男23 女53 計76
祈祷会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女8 計9
日曜学校 幼稚科7 小中科14 計21
ひちじ雲の会(4月23日(火)) 男0 女7 計7

【次週主日礼拝】 5月5日(日)

聖書: マラキ書 3:19~24
ルカによる福音書 1:67~79
説教: 「ルカ⑩ — あげぼのの光が我らに！」
武田 真治牧師
讚美歌: 208(1)、32、201、182、561、
81(1~2)、90(1)

【次週当番表】

司式: 飯田長老 奏楽: 羽倉長老 礼拝: 保坂長老
配餐: 相浦 茨木 岩佐 金刺 各長老
献金: 小草 勝村 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田
看板: 保坂長老 週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・会堂管理委員会
長老会

2024年 4月 28日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>